資料４－１

平成３０年度　第２回国営事業評価技術検討会

国営土地改良事業　再評価

現地調査概要

平成３０年7月１２日

北海道開発局農業水産部

地区別現地調査概要　目　次

（国営農地再編整備事業）

妹背牛（もせうし）地区 …… 1

富良野盆地（ふらのぼんち）地区 …… 3

平成 30 年度　再評価「妹背牛地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日　時：平成 30 年６月 19 日（火）　13:00～16:00
出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、波多野委員、森委員
（地元関係団体等）農業者、妹背牛町、深川土地改良区、JA 北いぶき、もせうし町土地改良センター
事務局：北海道開発局
概　要：
【現　地】整備箇所など（米穀乾燥調整貯蔵施設、大区画化ほ場（乾田直播）、花きハウス団地、花き集出荷施設）
【意見交換会】
委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・本地域のほ場は、未整備で水はけが悪く、排水路がほ場を分断するように配置されており、加えて、軟弱な畦畔などにより水管理に問題が生じていた。また、後継者不足や人手不足のため、効率的な営農が行えるほ場整備が求められていた。こういったことを踏まえ、町内の３地区がまとまり地域の農地を若い世代へ残すという意識で事業を要望した。

・本事業では、一筆 4.4ha の基盤をつくり、中畦を入れて 2.2ha を標準区画に設定した。水はけの良い汎用可能なほ場整備と併せ、用排水路のパイプライン化などにより、今まで大変な労力となっていた水路の清掃作業、草刈り作業などの管理作業が大幅に効率化された。また、深水管理が行えるほ場となり冷害の回避が可能で、安定的に収穫できるようになった。

・地区全体の７０％を占める泥炭区域では、昔から客土工が行われており、土作りには苦労していた。このような農地を後世に残すためには、区画整理が必要であり、本事業がなければ次の世代に引き継ぐことは出来なかったと思っている。この結果、Ｕターンや Ｉターンなどの、新規就農が多少増えてきている。

・整備後の苦労としては、ほ場内用排水路のパイプライン化により、開水路では見えていた水が直接確認できないため、色々勉強しながら管理している。

・妹背牛町の乾田直播については、導入当初は天候に左右され失敗を重ねていたが、水稲直播研究会でいろいろな技術を学ぶことで、技術力が向上し、今では経営も安定してきた。

・妹背牛町の乾田直播は、先進地域ではなく、岩見沢や美唄で先行して進められてきた。本地域では、ほ場整備が終わっているほ場から導入している。

・乾田直播を取り組むに当たっては、現有している農作業機械を使用し、機械の初期投資を抑えている。また、機械の共同利用により個人での機械投資も抑えている。

・妹背牛地区では、魚類などが生息している排水路を既設利用し、環境に配慮した形で整備を進めている。施設の管理からは、３面装工が望ましいが、生物の生息環境のためには環境配慮も必要と考えている。

・地区内の排水路では、多くの魚類などの生息が確認されていた。今年度、事業主体で工事後のモニタリング調査を行う予定であるが、大きな環境の変化がないことが実証されるものと思っている。

・妹背牛町で設置したRTK-GPS基地局のランニングコストは、現時点ではかかっていないが、老朽化等による更新となるとコストはかかってくる。RTK-GPSは個人が負担できるレベルにはないが、今後、技術革新と普及が進み、価格が下がれば個人で持てるようになると思われる。

・直播の作付け割合については、食味のよい直播用品種が定着してくれば、乾田直播の拡大がより進むと思っている。

以　上

平成 30 年度　再評価「富良野盆地地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日　時：平成 30 年６月 20 日（水）　13:00～15:50
出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、波多野委員、森委員
（地元関係団体等）農業者、富良野市、中富良野町、中富良野町農業センター、富良野土地改良区、ふらの農業協同組合
事務局：北海道開発局
概　要：
【現　地】整備ほ場、ＪＡ等関連施設（貯蔵庫）
【意見交換会】
　委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・地区内では、小区画なほ場と泥炭が広く分布しており、排水不良により降雨後すぐにはたまねぎの収穫ができず、効率的な農作業が出来ない地域であった。

・事業により、ほ場の大区画化、排水路及び暗渠排水が整備され、作業効率が向上し、収益性の高い作物の作付け拡大と品質向上につながり、収量も増大して所得が増加した。また、ほ場が整備されたことで優良な農地となり、耕作放棄地も無い。

・地域の営農変化として、以前も水稲より野菜が多く、とくにたまねぎやにんじんを作付けしていたが、自分の場合は整備後、８割から９割がたまねぎになっている。

・ＪＡの戦略としては、排水整備を契機に増加したたまねぎの増産に対応するため、新たにエチレン貯蔵庫を増設した。以前からあったＣＡ貯蔵庫と併せ、通年出荷体制が整い価格の高い時期に出荷が可能となり、農家の所得向上につなげたい。なお、にんじんの作付面積は、ここ何年かの価格低迷により減少傾向となっている。

・地域では、環境保全型農業をたまねぎで実践されている農家もいるが、地域全体で取り組むまでには至ってない。今後は、環境保全型農業に取り組んで行かなければならないと感じている。

・地域の営農としては、たまねぎへの窒素の施肥量を以前より減らし 15 kg/10a としている。この地域は泥炭土壌であり、土中からの窒素供給がある。
　このため、過剰な施肥を行わず堆肥を入れており、雑草を減らす除草剤散布の課題はあるが、環境保全型農業を実践していけると感じている。なお、ＪＡでは廃棄される農産物を堆肥化し、農地へ還元している。

・整備前は、降雨後３～４日はほ場に入れずにいたが、基盤整備後は排水性も良くなり、適期に作業が可能となった。そのため除草剤や農薬の散布を減らせることができ、このことが環境保全型農業につながっている。

・国営土地改良事業により基盤が整備され、加えて農家の所得が向上し、地域では後継者が育成されている。なお、後継者は整備されたほ場でトラクターにＧＰＳ受信装置を付け、自動操舵などを行う営農を希望していることも事業の効果と思っている。

・事業前は、飛び地があり通い作を行っていたが、換地の中で農地の集約が行われる予定である。換地については、受益者で換地委員会をつくり土地の評価を行い、受益者全員の理解を得て、現在進めている。

・ほ場横の排水路では、整備前に確認できなかった魚類が整備後の排水路でみられ、その魚類を捕食する鳥類の姿も確認され、自然が豊かになったと実感している。なお、排水路の水量は変わらないが、水質が良くなり生息環境が改善していると思われる。

・事業完了に向け、計画どおりの工事を進捗し、事業効果が一層体感出来るよう事業の推進をお願いしたい。

以　上